

家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの量産体制確立について ～ENEOSセルテック 新工場に約20億円の設備投資を実施～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)が三洋電機株式会社と2008年4月に合併で設立した株式会社ENEOSセルテック(社長:一色 誠一)は、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム(ENE・FARM)」の量産体制確立のための新工場を立ち上げることを決定しましたのでお知らせいたします。

エネファームは、高効率かつ環境性に優れていることから民生分野の温暖化対策の切り札として各方面から早期の普及が期待されております。2005年度から国の事業として「定置用燃料電池大規模実証事業」が行われてきましたが、当該事業は2008年度で終了し、いよいよ2009年度から商品機の本格販売を開始いたします。それに対応して新工場への設備投資を決定し、商品機の量産体制を整えることとしたものです。

ENEOSセルテックでは、2年間(2008～2009年度)に約20億円を投資し、2010年度に年間約1万台の生産が可能な体制を早期に確立します。さらに、2015年度までに年間約4万台を生産可能な体制を整えるため、2011年以降も追加投資を予定しており、2009年度から2015年度までの累計で約15万台の商品機を生産を行う予定です。

さらに、当社では2008年6月に立ち上げた「ENEOS わが家で創エネ」プロジェクトにおいて、エネファームをはじめとする各種家庭用エネルギー機器の効率的な組み合わせとその最適な利用方法を検証し、2010年度には「住宅用総合エネルギーシステム」としての商品化を計画しています。

当社グループは、「環境に優しいエネルギーシステム」であるエネファームの普及促進をはじめとした総合エネルギー企業としての取り組みにより、エネルギーの未来を創造し、人と自然が調和した豊かな社会の実現に貢献してまいります。

記

- 1.新工場予定地 群馬県 邑楽(おうら)郡 大泉町 坂田 一丁目1番1号(三洋電機株式会社 東京製作所 内)
- 2.設備投資額 2年間(2008～2009年度)で約20億円
- 3.生産能力 2010年度に約1万台/年、2015年度に約4万台/年
2009～2015年度に累計約15万台を生産
- 4.設備運転開始時期 2009年4月一部稼働開始、2009年度末完成(予定)

【株式会社ENEOSセルテックの概要】

本社・事業所 群馬県 邑楽(おうら)郡 大泉町 坂田 一丁目1番1号(三洋電機株式会社 東京製作所 内)
 資本金 1億円
 株主構成 当社 81%、三洋電機 19%産
 事業概要 定置用燃料電池システムの開発・企画、システム設計、生産管理

以上

